

平成30年度 第1回図書館協議会議事【概要版】

日時：平成30年7月20日（金）13：30～15：00

場所：長井市立図書館 3階視聴覚室

■委員：菊地とく委員長、大道寺高明副委員長、禅純委員、小関吉輝委員、神保義弘委員、
田中美壽委員、土屋正人委員

■長井市立図書館：倉持館長、山口副館長

■事務局：平田教育長、文化生涯学習課佐藤補佐、平

第1回 図書館協議会 次第

1. 開会
2. 委員長挨拶
3. 教育長挨拶
4. 協議
 - (1) 平成29年度事業報告について（図書館より）
 - (2) 平成30年度事業計画及び図書館予算について
 - (3) その他
5. 閉会

開会に先立ち、今年度から新たに委員となられた田中美壽委員及び土屋正人委員へ平田教育長より委嘱状交付を行った。

協 議

- (1) 平成29年度事業報告等について（図書館より説明）
 - ・内容は資料のとおり

館長 「神奈川県大和市の「シリウス」という図書館に視察に行ってきました。全国的にも注目されている複合型図書館です。まちの賑わい、駅前の活性化、行政課題の解決に大きな役割を果たしている図書館です。長井市の図書館も今後、複合施設となり、活性化に寄与していかなければなりません。「シリウス」のような成功事例をモデルにして、図書館としても今から多機能化に向けて、出来る取組みをしていきたいと考えています。具体的にどんな取組みをしていけばいいのかご指導お願いいたします。」

平成29年度事業報告等について副館長説明の後、質疑に入る
→質疑なしで全員了承

(2) 平成30年度事業計画及び図書館予算について

(事業計画は図書館より説明。予算については事務局より説明)

・内容は資料のとおり

文化生涯学習課佐藤補佐より、平成30年度図書館予算について説明。また、館長及び副館長より平成30年度事業計画について説明の後、質疑に入る。

委員 「図書購入費およそ370万円となっているが、この額でどのくらいの冊数を購入できるのですか。」

副館長 「ここ数年は2千冊前後で推移しています。図書館流通センターとの契約分、雑誌や新聞、DVD、大活字など毎月定額の分、その他図書館で選んで購入するもの、合わせて予算内で購入しています。」

委員 「来館者や市民のニーズに応えるという観点から、この予算、冊数で足りているのですか。」

副館長 「10年間くらいは、この予算で推移しています。図書館の蔵書のキャパの点から言うと、最初は5万冊の蔵書が、現在は倍の10万が蔵書として入っています。図書購入の予算は増額してほしいが、スペース的に難しい状況です。」

委員 「ベストセラーや文学賞を受賞した本を、図書館で何十冊も買ってしまい出版業界を圧迫することになったり、作家が育たないという現状があると聞いています。流行っている本をたくさん揃えて、入館者数を増やすということがあるようだが、図書館の良心としていかがなものか。」

副館長 「長井市立図書館は複数購入はしていません。1冊のみの購入としています。」

委員長 「他にご意見などございませんか。では、平成30年度事業計画及び図書館予算については了承いただいたということでしょうか。」

委員 全員了承

(3) その他について

委員長 「先ほど館長からご提示いただいた図書館多機能化に向けての、現状の課題について委員の皆さんからご意見を伺いたいと思います。」

委員 「長井市読書感想文コンクールの見直しについてですが、応募数減少の背景には、学校が忙しくなっているということがあるのではないのでしょうか。先日子どもたちの作文を目にする機会がありましたが、文を繋げただけのものや、原稿用紙の使い方が出来ていないものもありました。一人一人に向き合える時間がない学校の現状が反映されているのではないかと感じました。

書きたい、述べたいという思いがある子どもにとっては、読書感想文コンクールは必要だと思います。」

委員長 「読書感想文コンクールの見直しについて、他にご意見ありませんか。」

委員 「読書感想文は夏休みの宿題になることが多いと思います。ポスターと感想文、どちらかと言われると、ポスターを選ぶ方が多いのではないのでしょうか。図書館で、読書感想文の書き方教室を実施してもらえるといいのでは。」

委員長 「以前も、読書感想文コンクールについての見直しは議題になりました。その際、子どもたちが読書をし、文章を書く大事な機会と捉えてはいかがかというご意見をいただきました。夏休みの宿題で文章を書くものが少ないようです。他にもコンクールはありますが、この長井市立図書館が行っているコンクールを大事にしようというという学校側の姿勢も必要なのではと思います。様々なコンクールがあり、取捨選択していく過程で、自分のまちのコンクールを大切に思うことが大事だと思います。」

委員 「今後、子育てを核とした多機能型図書館を考えたときに、学校単位での応募でなく、家庭や親子で応募というのも一つの方法では。学校に任せるのではなく、もっと応募の裾野を広げるのもいいのではないのでしょうか。

角野栄子さんについては、国際アンデルセン賞を受賞され、図書館としてもっと活かせるアイデアがほしいところ。」

教育長 「様々な課題がある中で、読書感想文コンクールを継続していただいていることに感謝申し上げたい。委員のご発言にあったように、子どもたちが文章を書く機会は少なくなっているのは事実です。書くことは考えることであり、書くことが少なくなっているということは、子どもたちは考えているのではなく反応しているだけという場合が多いの

かもしれません。長井市で読書感想文コンクールを続けることは、文化レベルにもつながります。ぜひ続けていただきたいと思います。」

委員 「子どもにとって、思考する、探求する、表現するということが、ますます重要になってきています。文章を書くという時間を確保するということが大事だと思います。50回という継続の重みが大切だと思うので、読書感想文コンクールは、ぜひ続けてほしいです。」

委員 「コミュニティセンターと図書館の関わりについて、他市町のコミュニティセンター活動の事例集などを紹介してほしい。」

委員 「図書館ボランティアの必要性を認識している。また施設入所者への貸し出しも大事だと思います。」

委員長 「多機能化型図書館に向けて、啓発チラシなどで図書館ボランティアの募集なども考えてみてはいかがでしょうか。」

委員 「高齢者を受け入れる図書館であってほしいという思いから、協議会委員に応募しました。極論を言うと、教育という観点での図書館の役割は、もう終わったのではないかと考えています。読書感想文コンクールについては、なくすことはあり得ない。学校単位で応募しなければならないという応募の経過が問題だと思います。

多機能型については、市民をどう捉えるかが、図書館の立ち位置を決めるのではないかと思います。

筑波大学で、「高齢者利用と公共図書館」という報告書を発表しているようです。取り寄せてみてはどうか。「認知症にやさしい図書館ガイドライン」というものもあるらしいです。」

委員長 「図書館は、社会教育という括りの中で役割を果たしてきました。どちらかというと若者対象の取組みが多かったかもしれません。現在は、高齢者が多くなっているので対応できるような図書館であってほしいということですね。今後の運営に取り入れてほしいと思います。

様々ご意見をいただきました。皆さま、本日はありがとうございました。」